



伸びよう阿曽っ子



9月品格目標：やりぬく心

インターネットトラブルから子どもを守る

スマートフォンやゲーム機等の普及によって、インターネットはますます子どもたちの生活に身近になりました。

一方で、SNS での友達とのトラブルや、不適切なサイトなどにアクセスし、犯罪やトラブルに巻き込まれるケースも絶えません。

これまでインターネット機器やアプリ等を使用したことのない子ども達がいきなりネットの世界に入り込むわけですので、トラブルが起こるのは当然のことです。学校においても情報モラル等の指導をしていますが、個人のインターネット機器使用における友達とのトラブル等の対応については、学校教育では限界があります。

子どもにインターネット機器を使用させる場合、保護者の皆様がその特徴や、様々なリスクについて理解しながら、子どもを見守ることが重要です。

※参考資料（岡山県教育委員会作成）

○スマホ・ネットの利用に関する啓発動画及びチラシ「わが家のスマホアクション」を作成しました！

<https://www.pref.okayama.jp/page/689987.html>

○「ネット社会の落とし穴」（9分44秒）

<https://www.youtube.com/watch?v=XZ8vBS5ezLk>

令和6年度情報モラル啓発資料(No.5)

小学生用

文字でのやりとりはむずかしい？

インターネット上で友達とやりとりをしているとき、自分が送った言葉を相手がちがう意味に受け取ってけんかになってしまった、といった経験がある人はいませんか？

文字だけでは気持ちが伝わりづらい

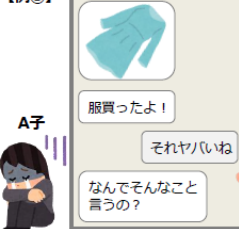
私たちはだれかと顔を合わせて話をするとき、言葉の中身だけでなく相手の表情や声の調子、身ぶり手ぶりなどの情報もまじえて、相手の気持ちを判断しています。



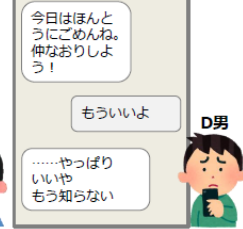
しかし、インターネット上のやりとりには、そのような情報がありません。文字だけで相手が何を伝えたいかを判断します。そのため、おたがいの気持ちが伝わりづらく、誤解が生まれてしまうことがあります。

例えばこんな誤解が……

【例①】



【例②】



例①のやりとりでは、B子さんはその服い/ねとほめるつもりで「ヤ/い」という言葉を使ったのですが、A子さんは悪い意味（けなされている）で受けとっていました。また例②のやりとりでは、D男くんは「もういいよ（もう気にしてないよ）」と伝えたくて言ったのですが、C男くんは「もういいよ（もうどうでもいい）」と言われたと勘がいかしてしまいました。



文字でのやりとりでは気持ちを伝えるのが難しく、誤解が生まれやすいということを頭に入れて、相手が誤解しそうなどところがないか、必ず確認してからメッセージを送りましょう。

Copyright (c) 2007-2024 Pole To Win, Inc.



Fight 阿曽っ子!

10月2日(水)の午後から参加する総社市学童陸上記録会に向けて、6年生の子ども達がかんばっています。5年生の子ども達も陸上競技の技能を高めるため、6年生といっしょに練習しています。

9月19日(木)には、6年生は記録会が開催される総社北公園で山手小学校の子ども達といっしょに練習しました。総社東中学校の先生方から指導を受けながら準備運動を行い、その後各自出場する種目に分かれて練習しました。

はじめのうちは、人数が多い山手小学校の子ども達に圧倒されていましたが、それぞれ本番に向けて感覚を確認しました。

